

平成30年6月17日（日）

「玲瓏祭」閉祭式挨拶

秋田県立本荘高等学校 校長 今井 智幸

雨雲<sup>あまぐも</sup>の動きが心配された初日の「仮装パフォーマンス」も無事予定通りに行われ、二日目の今日は、特設駐車場にしていた第一グラウンドが満杯になる程、一般の方々が来校してくれました。ここ数年では、一番の来校者数ではないかと思われる盛況ぶりでした。駐車場係を担当してくれた硬式野球部の皆さんも、ちょっと驚いたのではないかと思います。

生徒会の皆さんをはじめ、文化委員会、放送部、保健委員会、硬式野球部、そして全校の生徒が、来校された方々に楽しんでもらえるように、また本高生の多様な活動を知ってもらえるように、様々な創意工夫をして取り組んできたおかげだと思います。

そして、これまで「玲瓏祭」の充実に努力してしてきた卒業生たちが積み上げてきた「玲瓏祭」への評価、信頼を忘れてはいけないのだと思います。改めて、これまでの「玲瓏祭」に係わってきた、多くの卒業生や先生方に感謝の念が起こります。

今日は、高校生らしいアイデアやすぐれた作品が数多く見られました。

- ・ 紆余曲折のレーン作りで、なかなかピンに当たらない微妙な調節のしてあるボーリング
- ・ まじめで面白おかしく、かつ、重くて軽い高校生らしいシネマ作り
- ・ 時々ゴットハンドが出てきて、逆に手作り感満載で盛り上がったピタゴラス
- ・ 凍結したはずのバナナが砕けて、ちょっと焦り気味の部員とは逆に、見ていた子供たちがキョトンとしていた実験
- ・ 高校生の興味・関心や心引かれる瞬間が、つまり写真の撮り手の思いが逆に映し出されていた写真
- ・ 学級担任、副担任に対する「愛」に溢れていたクラス紹介

高校生らしい発想や、ちょっとした失敗も逆に味わいで、玲瓏祭に楽しさを添えています。

また、例年のように、秋田県立大学、PTAの方々、定時制の生徒も楽しみながら、玲瓏祭に協力して盛り上げてくれました。人生経験豊富な保護者の方が本気になったら、高校生にとっては手強い相手です。格安販売のバザーは、人だかりの山。秋田名産の木箱入り高級「稲庭うどん」の6割引販売は、ちょっと反則気味でした。

卒業生たちの見えない力も感じられた今年の玲瓏祭は、まさにテーマ「百花<sup>ひやつかりらん</sup>瓏乱」にふさわしい学校祭だったと思います。1、2年生は、来年度以降も、ぜひこの好循環を引き継ぎ、更に充実・発展させて行って欲しいと思います。

今日の来校者に象徴されるように、生徒の皆さんが思う以上に地域の方々には本校に、そして本高生に興味・関心をもって来ています。120年近くの歴史と伝統をもつ本校の同窓生は地域にもたくさんいて、様々な形で後輩にあたる在校生を応援してくれていることも忘れてはいけません。

本高生としての、自覚と誇りを忘れず、ハレとケの「ケ」に戻る明日からまた、勉学に、部活動に励んで欲しいと思います。